

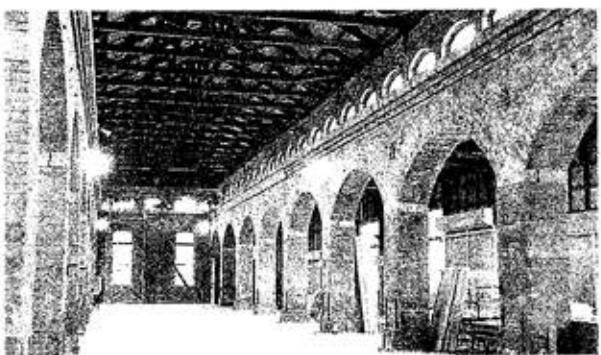
朝日新聞 2015年8月1日(土)  
第2千葉 28ページ掲載

## 旧鉄道連隊の遺構 伝える

### 千葉・稲毛、れんが建築企画展

千葉市稲毛区の千葉経済学園内で保存されているれんが建築についての企画展

が、千葉経済大学総合図書館で開かれている。9月15日まで。建築物は旧鉄道連



旧鉄道連隊材料廠のれんが建築＝千葉市稲毛区

隊などが使用したもので、戦時下の千葉の姿を現在に伝える貴重なものだ。

総合図書館2階には、れんが建築の構造や歴史を伝えるパネル約20枚が並んでいる。学園敷地内に残されていた枕木やれんが、県の歴史や鉄道連隊に関する本なども展示している。

学園内には、県指定有形文化財(建造物)の「旧鉄道連隊材料廠煉瓦建築」がある。主要構造部は東西約54㍍、南北約7㍍の長方形の平屋建てだが、高窓が並び2階建てのように見える外観だ。

建物は1908(明治41)年に旧鉄道連隊の材料廠として建築された。建物

内は10連のれんがでできたアーチが並び、アーチの中に機関車を引き入れて修理などをしていたとみられる。戦後は大蔵省、国鉄と引き継がれ、1985年に学園の所有となった。関東大震災や第2次世界大戦の空襲でも被災を免れた貴重な建物で、現在は外から見ることが出来る。

学内に残る建物についての展示は初めてで、総合図書館の斉藤誠一館長(62)は「戦争遺跡を見ながら、今の平和について考えて欲しい」と話している。

図書館は学生以外にも開放されている。休館日などの問い合わせは同図書館(043・2533・9941)へ。